

私たちの大好きな町

川本町移住パンフレット2020

SHIMANE KAWAMOTO, JAPAN

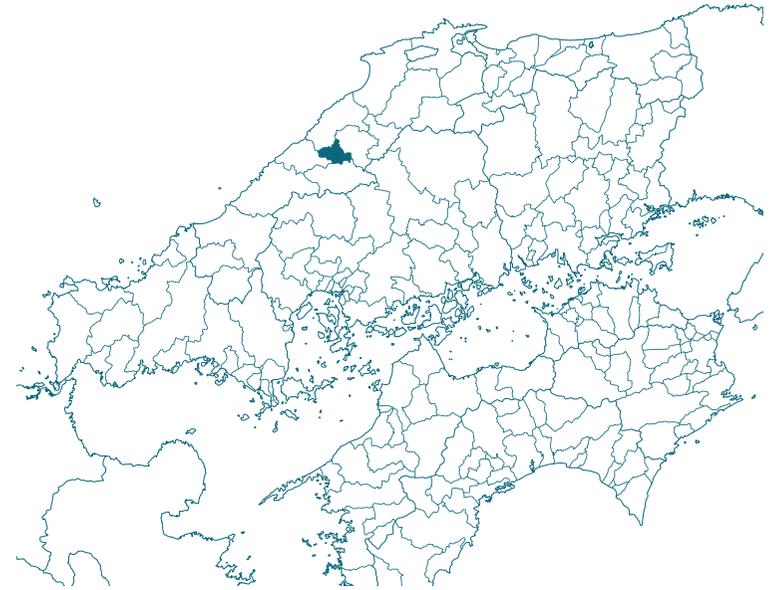


かわもと暮らし
川本





かわもとまち
川本町は、健康食品であるエゴマの栽培で知られる人口約3,300人の小さな町です。面積の約81%を山林が占める典型的な中山間地域でありながら、町を縦貫する「江の川」の水運により、古くは石見銀山（世界遺産「石見銀山遺跡」）の玄関口として栄え、石見地方の要衝、「交流の町」として発展してきました。



INDEX

総合相談窓口「かわもと暮らし情報センター」 P-04

川本町のこと P-06

川本町での住まい P-08

川本町での子育て P-09

川本町の教育環境 P-10

川本町の地域教育 P-12

川本町での仕事 P-13

川本町地域おこし協力隊 P-14

特集記事 No.1 「子育て移住のすゝめ」 P-16

特集記事 No.2 「多様化するニーズと求められる柔軟性」 P-17

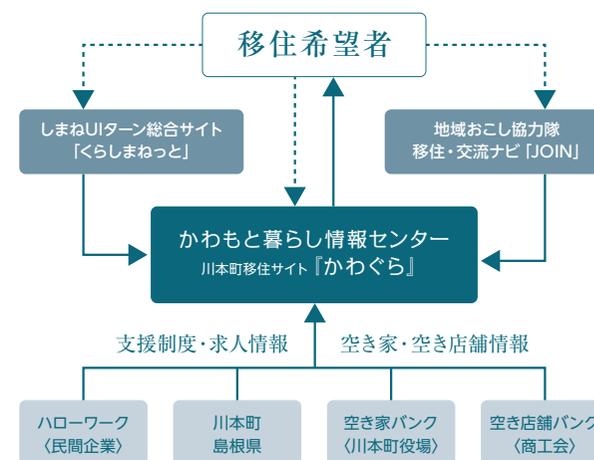
支援制度一覧 P-18

川本町の自然・文化・歴史 P-20



移住・定住にまつわるあらゆる相談にワンストップで対応する かわもと暮らし情報センター

川本町では、移住・定住についての総合相談窓口「かわもと暮らし情報センター」を開設しており、専任のスタッフが、仕事、住まい、子育てに至るまで、移住・定住にまつわるあらゆる相談にワンストップで対応しています。メール、電話での個別相談はもちろん、各地相談会への出展やPRイベントの開催、「かわもと移住体験プログラム」や川本町移住サイト『かわぐら』の運営などを行っています。



かわもと暮らし情報センター ☎0855-74-2110

✉ info@kawamotogurashi.jp

〒696-0001 島根県邑智郡川本町大字川本608-1

総合相談窓口 ☎-☎ 9:00~17:00 〈土・日・祝日定休〉

🌐 <http://www.kawamotogurashi.jp>



宿泊費・町内交通費無料の随時型体験ツアー かわもと移住体験プログラム

令和2年度
かわもと移住体験プログラム

島根県川本町
SIKAMOTO KAWAMOTO TOWN



小さな笑顔が春を吹く

随時型 かわもと移住体験ツアー 参加者募集!!

※ 2020年4月1日～2021年2月28日(※)

※ 随時型体験ツアー

※ 川本町の暮らしを体験したい方へ

※ 参加費無料(但し、町内交通費は別途必要です)

※ 川本町暮らし情報センター(0855-24-2110)へお問い合わせください。http://www.kawamotogurashi.jp

かわもと暮らし情報センター 0855-24-2110 | info@kawamotogurashi.jp | http://www.kawamotogurashi.jp

〒690-0001 島根県川本町川本4-1-1 総合相談窓口 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝祭日) ※お問い合わせ先は、お問い合わせ先を必ずご確認ください。

「かわもと移住体験プログラム」では、事前の相談内容を踏まえ、川本町での実際の暮らしを感じることができるよう日程・プログラムを個別に作成します。職場体験や空き家見学のほか、保育所や学校、商業施設、病院など、「この町で生活する」ことを前提としたオーダーメイドな体験プログラムをご案内します。

期 間：2020年4月1日～2021年2月28日
町内交通費・宿泊費無料

*現地までの交通費・食事代・保険料等についてはご負担ください
*プログラムの内容により別途体験料が必要な場合がございます
*川本町移住サイトお問い合わせフォームまたは、メール・お電話にてお申し込みください。

▶▶▶ <http://www.kawamotogurashi.jp/contact/>

私たちが全力でサポートします。



移住プランナー
浪崎 健一

かわもと暮らし情報センター事務局長



私自身も4年前に静岡県から川本町に家族で移住し、現在は5歳と2歳、2人の子どもの父親でもあります。移住先での生活に求めるものは人それぞれだと思いますが、相談に来られる方の思いを大切にし、住居や就業先、保育所や学校、自治会への紹介など移住後の生活も含めて全力でサポートいたします。疑問や不安解消のお手伝いとなるよう、個々の事情にも柔軟に対応いたしますので、まずはお気軽にご相談ください。



川本町移住サイト『かわぐら』
http://www.kawamotogurashi.jp



田舎の自然環境に利便性が機能するコンパクトタウン

川本町のこと

移住しやすい
ちょうどいい町

川本町は、かつては人口約1万人を数え、現在も国県の出先機関や警察署、銀行の支店が残るなど「都会の利便性を持つ田舎の町」としての側面を持っています。「交流の町」として発展してきた町民感覚を背景とする都会的な感覚、外部の人間を受け入れる寛容さがあり、移住者にとって「移住しやすい町」とされています。

川本町の立地

川本町は、島根県のほぼ中央に位置し、高速道路を利用して広島まで約1時間半の道程。大田市、江津市に隣接しており、「出雲大社」や「石見銀山遺跡（世界遺産）」をはじめ、国引き神話の舞台ともなった国立公園「三瓶山」、国の天然記念物である鳴き砂で知られる「琴ヶ浜」、「しまね海洋館アクアス」を有する「石見海浜公園」など、近隣にはお出かけスポットが目白押しです。町内には、天然温泉施設や室内温水プール、スポーツジム、野球場のほか、多目的ホールや音楽ホール、図書館などが整備されています。

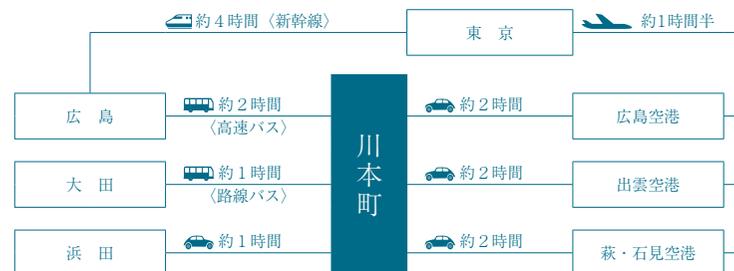


川本町の交通事情

川本町内の交通手段としては、主に車、バス、タクシーがあります。路面の凍結、積雪のため冬期にはスタッドレスタイヤの装備が必要となりますが、川本町近郊には、信号も数えるほどしかなく、車での移動にストレスがないので、片道1時間の道程も十分に生活圏内です。遠隔地指定地域ではないことから、宅配便等の輸送に追加料金が発生することはほとんどありません。

町内6箇所を経由する広島駅新幹線口への直通バス（石見銀山号）が運行されており、出雲縁結び空港、広島空港、萩・石見空港を利用する航空便のほか、広島からの新幹線の利用が便利です。高速バスを利用する場合は、出雲発着便か浜田発着便（最寄り：「大朝I.C.」）の利用が可能です。

アクセス





川本町での買い物

川本町は、離島を除き県内では唯一、いわゆる「平成の大合併」を経験しておらず、目の行き届くコンパクトさが町の大きな特徴となっています。町内全域に光通信サービスが整備されており、病院、学校、金融・公的機関といった生活に必要な施設も揃っています。コンビニ、スーパー、薬局、ホームセンターなどの商業施設もあり、買い物に不便を感じることもほとんどありません。通勤などを考えるとマイカーの所有は必須ですが、町の中心部に暮らす分には、徒歩圏内で全てが事足りる「田舎らしからぬ」利便性を持っています。

川本町での食事

石見和牛や石見ポークのほか、天然鮎やツガニ、ノドグロに代表される海鮮魚も県内随一の水揚げ量を誇る浜田港などから手に入るため、新鮮な食材に事欠くことはありません。



道の駅「インフォメーションセンターかわもと」では、エゴマ、西条柿などの特産品や各種お土産物に加え、地元産のお米や新鮮野菜なども安価に購入できるほか、併設する「レストランいんふお」にて、ボリューム満点の食事をとることもできます。

町の中心部にある「弓市商店街」には意外なほど飲食店が多く、毎日の自炊が苦手という人にも心強い環境です。

地勢

中国山地の北、島根県のほぼ中央部に位置する典型的な中山間地域であり、総面積106.39km²、東西に16.5km、南北に13.5kmの菱形をしています。北東から南西に向かって約14.2kmにわたり、中国地方最大の一級河川「江の川（総延長192km）」が貫流し、総面積の約81.6%を山林が占めます。

気候

気候は、山陰地方特有の低温多湿型で、年間の平均気温は約14℃。日本海側気候の地域としては最西南端に位置するため、比較的温かな気候であり、年間降水量は約1,700~2,000mm。12月~3月にかけて数回程度、10cm~20cmの積雪があるものの、日中の平均気温が比較的高いことから、根雪となることはありません。

人口

〈令和2年1月現在〉

人口	男	女	65歳以上	高齢化率	15歳未満	世帯数
3,263人	1,536人	1,727人	1,466人	44.9%	313人	1,653世帯

施設

〈令和2年1月現在〉

図書館	1	子育て支援施設	1	郵便局	3
公民館	3	学習支援施設	1	金融機関	3
認可保育所	3	一般総合病院	1	警察署	1
公立小学校	1	歯科診療所	2	駐在所	1
公立中学校	1	ドクターヘリポート	2	消防署	1
県立高校	1	無料職業紹介所	3		

その他

〈○：可 △：一部地域で不可〉

光回線	CATV	携帯3社	ガス	下水	救急医療機関
○	○	△	プロパン式	合併浄化槽（一部集落排水）	車で約20分

古民家カフェ、新築マイホームも夢じゃない 川本町での住まい

川本町では、空き家バンクの活用や町営住宅の提供のほか、最大350万円の空き家改修助成、新築・中古住宅購入助成などの支援制度が充実しており、安価に新築戸建住宅に入居できる定住促進住宅の整備も進んでいます。

定住促進住宅

新築戸建〈木造2階建〉専用駐車場付 4LDK〈99.27㎡〉オール電化住宅
家賃:25,000~40,000円/月 敷金:40,000~80,000円〈入居時〉

- 追加特典① 子どもの人数に応じて家賃が減額
※子ども1人につき高校卒業までの最大10年間〈上限3~4人分〉
- 追加特典② 入居後15年で買取可能
- 追加特典③ ペット飼育応相談

〈応募条件〉

- ① 川本町に定住するための住宅を必要とし、入居後、速やかに住民票を移すことができる方
- ② 入居時、夫婦いずれかが40歳以下又は中学生以下のお子さんを1人以上扶養している世帯
- ③ 住宅に長期的に居住することが見込める方



町営住宅〈世帯用〉



お試し住宅〈最長1年間〉



民間アパート



川本町空き家バンク

<http://www.town.shimane-kawamoto.lg.jp/category/akiyabank/>





子どもの医療費
保育料無料

地域に見守られながら安心して子育てできる 川本町での子育て

川本町では、地域住民が一体となった子育て環境づくりを実践しており、地域の指導者によるジュニアスポーツクラブや公民館活動に加え、中学生までの子どもの医療費無料や保育料の完全無料などの支援制度も充実しています。子育てサポートセンターでは、在宅児家庭向けの交流スペースや放課後の子どもの居場所づくり、地域の「もの・ひと・こと」とふれあう体験活動など、様々な取り組みを行っています。

町の中心部には総合病院、郡内に24時間体制の救急医療機関である公立病院があり、乳幼児医療（小児科）に対応しています。



少人数だからこそその魅力、保・小・中・高の連携教育

川本町の教育環境

町内には3カ所の保育所のほか、小学校、中学校、ユネスコスクールにも認定されている県立高校があり、世代間の交流や地域とのふれあいの機会を多く取り入れた特色ある教育を行っています。

川本・因原・川本北保育所 体験を通じて学ぶ、元気な根っこづくり



▶完全給食の実施(無料) ▶ALT*による英語遊びや外部講師による運動・美術指導 ▶田植えや川遊びなどの自然環境を活かした様々な体験学習 ▶土曜保育・延長保育・一時保育・障がい児保育に対応 ▶保育料完全無料などの充実した支援制度

*ALT……Assistant Language Teacherの略。英語の授業で日本人教師を補助する外国語指導助手。

川本小学校 ふるさとを愛する、たくましい子どもの育成



▶全ての児童が主体的に学ぶ「学び合い授業」 ▶学習支援員による学習サポートの充実 ▶地域の特産品を活かした学校給食による食育推進 ▶地域に学ぶ「ふるさと教育」の充実 ▶図書館司書の常駐 ▶専任ALT*の配置 ▶電子黒板・タブレット端末を活用したICT教育

川本中学校 知・徳・体の調和のとれた人間形成の確立



- ▶ トップアスリート等から学ぶ「夢先生授業」の実施
- ▶ 少人数を活かしたきめ細やかな指導体制
- ▶ 学習支援員を各学年に配置
- ▶ 図書館司書の常駐
- ▶ 専任ALT*の配置
- ▶ みんなが主役の生徒会・部活動
- ▶ 職場体験などのキャリア教育の視点を持った教育活動

島根中央高等学校 地域を愛し、夢を叶える人財の育成



- ▶ 1クラス30人学級を基本とした少人数指導体制
- ▶ 人文科学・自然科学・地域デザインのカース制・総合選択制
- ▶ 県内唯一の女子硬式野球部、カヌー部・吹奏楽部などの多彩な部活動
- ▶ まちごとキャンパス学習「職業体験」の実施
- ▶ 全国約100校から集まる生徒たち

地域との関わりの中で健やかな心身を育む 川本町の地域教育



かわもとスポーツクラブ

生涯を通してスポーツを楽しむ環境づくりを目指して活動している「かわもとスポーツクラブ」には、小学生を対象とした「ジュニアクラブ」があります。野球やバレーボール、フットサル、バスケットボール、剣道などのスポーツ教室に参加でき、各クラブとも放課後や休日に小学校の体育館を貸し切るなどして練習しています。スペースや設備を贅沢に使えるのも田舎ならではの魅力。地元有志による指導のもと、地域との関わりを自然に身につけることができます。



ケーポップ K-POP

K-POPとは、川本町教育委員会が中心となって実施している「かわもとポカポカ親子プロジェクト」の略称です。親子のふれあいの時間を通じて子育ての基本である親子の絆を深め、地域や自然との関わりの中でふるさとへの愛着を育てていくことを目的に、山菜採りや竹の子狩り、鮭の観察会やピザづくりなど毎回ユニークなイベントを企画しています。都会では、なかなか体験できない経験ができることとあって、移住者家族にも大好評のイベントです。



かわもとサマーキャンプ

町内の子どもたちを対象とした2泊3日のサマーキャンプには、夏休み中の小学生らが参加し、竹食器づくりや野菜の収穫、川遊びやアユの掴み取りなどの様々な体験学習を行います。地域住民らの協力のもと、島根中央高校の生徒らもボランティアスタッフとして加わり、自然の豊かさを満喫しながら世代間の交流を深め、地域の魅力を再発見します。子どもたちにとっては、一生の思い出となる体験ができる人気のアウトドアイベントです。



ベンチャーキッズスクール

自ら考え、行動できる未来の起業家を育てることを目的に、町内の小学生を対象に毎年開催されているベンチャーキッズスクール。昨年は、町内唯一の温泉施設である「湯谷温泉 弥山荘の活性化」をテーマに全5回の日程で開催されました。最終日には、自分たちで発案した「オリジナルパフェ」と「手作り石けん」を実際に販売するなど、マーケティングリサーチに始まり、商品企画、販売と実際のビジネスさながらの貴重な社会体験を行いました。



一人ひとりのマンパワーが地域の暮らしを支える 川本町での仕事

川本町では、地域おこし協力隊制度や産業体験、農業次世代人材投資事業などの就農支援制度に加え、町として58年振りとなる県外企業の工場誘致やIT系企業の町内進出に伴うテレワーク拠点の整備など、新たな雇用の創出にも取り組んでいます。

空き店舗対策としての事業継承支援や新たな起業支援、空き店舗情報サイトの開設など、町の中心地である弓市商店街の活性化にも力を入れており、実際の空き店舗や地域資源等を活用した「弓市ビジネス・チャレンジ・コンペティション」の開催を毎年行っています。

空き店舗情報サイト『HELP! かわもと』

<http://www.help-kawamoto.jp>



かわもとテレワークスペース OTO-LaVo (オトラボ)

自らの夢や目標に挑戦する人財を全力で応援!!

川本町地域おこし協力隊

川本町には、現在10名の地域おこし協力隊員、10名の協力隊出身者とその家族が居住しており、県平均と比べても極めて高い定住率を堅持しています。個々の要望に柔軟に対応するため、チャレンジ型・ミッション型の2つの受入体制を設け、全国に先駆けて隊員の活動支援補助金を明確に制度化しています。

全国に誇る
高い定住率



観光活性化コーディネーター〈チャレンジ型〉

曾我 瞭 さん

カフェ Irohaco

2年前に長野県よりIターン移住し、現在は、「江の川流域・三瓶山エリア広域観光連携推進協議会」の事務局を務めながら、川本町を中心とした観光の活性化に取り組んでいます。また、川本の中心地である弓市地区の空き家・空き店舗の利活用推進を目的に、任意団体「弓市リノベーションプロジェクト」を立ち上げ、昨年11月には活動の第1弾として、カフェ「Irohaco (イロハコ)」をオープンしました。地域の方が気軽に立ち寄れる多世代交流拠点を目指して、日々営業を行っています。



高校魅力化コーディネーター〈ミッション型〉

須崎 開人 さん

川本町学習交流センター

東京出身で、高校3年間を「しまね留学生」として川本町で過ごしました。当時の思い出は、学校よりも寮生活のことが多く、大学進学で東京に戻った後も当時の仲間との交流は続いています。大学では社会学を専攻し、教員免許を取得。卒論テーマにも「しまね留学」を選びました。最初は嫌々だった田舎暮らしも今では懐かしく、どこかに住むならやっぱり川本町がしっくりくると感じ、地域おこし協力隊に応募することにしました。自らの経験を活かし、学習面も含めて寮生をサポートしていけたらと思っています。

地域おこし協力隊とは？

「地域おこし協力隊」とは、人口減少の著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動等に従事しながら、その定住を図るための総務省の取り組みです。川本町では、町内を拠点に自らの夢や目標に挑戦するチャレンジ型、地域の課題解決のための要望に応えるミッション型の2つの受入体制を設けています。

ミッション型〈雇用〉基本報酬

136,800～165,760円／月〈手当等含 最長3年間〉

賞与あり（年2回）／健康保険・雇用保険・厚生年金・労災保険加入

チャレンジ型〈個人事業主〉基本報酬

〈1年目〉200,000円／月 | 〈2・3年目〉225,000円／月

賞与なし／国民健康保険・国民年金加入

活動支援補助金とは？

「川本町地域おこし協力隊活動支援補助金」は、地域おこし協力隊の趣旨である「地域の活性化と3年後の定住」に沿った活動に要する経費に対し、隊員の活動支援を目的として交付される川本町独自の補助金制度です。住宅費等を含め、基本報酬とは別に、年間で最大200万円（最長3年間・計600万円）の補助を受けることができます。

活動支援補助金

500,000～2,000,000円／年

起業支援補助金

1,000,000円／年
〈任期後1年間〉

※活動支援補助金は職種や活動内容によって上限金額等が異なります



スポーツトレーナー

〈チャレンジ型〉

田井 誠 さん

かわもとおとぎ館

▶ 活動内容

かわもとおとぎ館トレーニングルーム等での運動指導



まちの温泉活性化支援員

〈ミッション型〉

小丸 郁美 さん

地域活性化センターかわもと

▶ 活動内容

湯谷温泉弥山荘の運営と「食」をテーマとした地域活性



農業研修生

〈チャレンジ型〉

野澤 友裕 さん

▶ 活動内容

エゴマの栽培・加工・販売研修と新規就農



ローカルクリエイター

〈チャレンジ型〉

山内 ゆう さん

石見織企画室

▶ 活動内容

石州和紙等の地元素材を材料とした石見織の確立



農業研修生

〈チャレンジ型〉

中村 優史 さん

▶ 活動内容

農作物の栽培研修と新規就農



まちの温泉活性化支援員

〈ミッション型〉

永田 正彰 さん

地域活性化センターかわもと

▶ 活動内容

湯谷温泉弥山荘の運営と「音楽」をテーマとした地域活性



弓市ビジネス・チャレンジ・コンペティション

川本町の中心地である弓市商店街では、空き店舗や地域資源を活用した新たな取り組みとして、「弓市ビジネスチャレンジコンペティション」と題したビジネスコンテストを毎年開催しています。昨年は、川本町地域おこし協力隊として1年間活動していた小林紗友里さんが、「陶胎漆器・磁胎漆器の普及と伝統工芸技術の伝承を担うものづくり拠点の構築」のビジネスプランで、第2回採用者として選出され、現在、本年度中の事業実施に向けた準備を進めています。

開業支援金：1,200万円／3年〈川本町地域おこし協力隊として委嘱〉



弓チャレ特設サイト

<http://www.yumichalle.jp>



弓チャレ・アントレプレナー

小林 紗友里 さん

陶胎漆器作家



子育て世帯に選ばれ続ける魅力

川本町子育て移住のすゝめ

特集記事
No.1

移住先の田舎でのびのびと安心して子育てしたいという30代を中心とした子育て世帯からのニーズは、年を追う毎に増えています。川本町では長年、子育て世帯の移住希望者受け入れに力を入れており、定住促進住宅や空き家改修助成の大幅増額など住環境の整備にも取り組んでいます。



デイビット・セナン・ヌモンビイー さん

エスワティニ王国(アフリカ)出身

妻とは10年程前に母国スワジランド王国(現エスワティニ王国)で出会い、その後、韓国留学を経て来日。2年前に神奈川県から家族4人で川本町に移住し、こちらで三男が生まれました。鳥根には数年前にも訪れたことがあり、どこか故郷のアフリカを思い起こすのどかな田園風景や町の人の温かさが気に入り、移住を考えるようになりました。

言葉の問題などから、なかなか仕事が決まらない中で鳥根県の「産業体験プログラム」に応募し、1年間夫婦でえごま鴨の飼育に従事した後、昨年4月からは隣の大田市で

農業関係の仕事に就いています。

移住後しばらくは町営住宅で暮らしていましたが、子育てのことも考え、手頃な平屋を探していたところ、近所の方の紹介で、以前は古民家カフェを営んでいた旧郵便局を改修した建物を住居として借り受けることができました。スペースが広がったことで、自然と息子たちの兄弟喧嘩も減って、家族5人のびのび過ごすことができている。

都市部に暮らしていた頃を思うと、こちらに来てからは風邪を引いたりすることも少なく家族みんなが元気になったような気がします。妻の産休も明け、共働きでの子育ては大変ですが、地域の方々にも助けられながら毎日楽しく暮らしています。

多様化するニーズと求められる柔軟性

地方創生・地域活性の重要性が叫ばれて久しい昨今、移住希望者のニーズは益々多様化し、細分化されています。川本町では、小さな町だからこそその機動力を活かし、個々の要望にも柔軟に対応すべく専門の移住相談窓口を設けるなどの先進的な取り組みを続けています。



大村 信望 さん

cuereate

高校生の時からまちづくりの活動に興味を持ち、大学・大学院では建築を学びましたが、在学中に東日本大震災を経験したことで、その興味はハードからソフトへ、そして教育へとシフトしていきました。地域おこし協力隊に応募し、横浜から川本町に移住。高校の寮である学習交流センターのコーディネーターとして2年間活動した後、町内で独立しました。現在は、カフェや塾の運営を行いながら、高校の外部講師、教育関連事業の委託業務を行っています。地域と学校との連携が進む川本町でならと、今後の活動にも手応えを感じています。



谷 和泉 さん

地域活性化センターかわもと

昭和46年に川本高校を卒業後、松下電器産業（現パナソニック）にて42年間を勤めあげました。定年退職後は、親の介護の関係もあり、月に一度は川本へ戻る生活をしていましたが、昨年4月より弥山荘施設長の任を仰せつかり、家族の理解も得て、京都府木津川市から単身Uターンしました。今の川本があるのは、ここで頑張っておられた方々がいるおかげ。その恩返しのつもりで、町唯一の温泉施設の運営に取り組んでいます。都市部にいる同窓生らにも発破をかけ、愛する我が故郷存続のための一助になればと思っています。

充実の支援制度が移住後の暮らしをバックアップ

支援制度一覧

それぞれの助成・支援制度については要件等がありますので詳しくは、
右記連絡先までお問い合わせください。川本町役場 総務財政課（代表） ☎0855-72-0631

どこよりも!?
手厚い支援制度

●保育料完全無料

保育料完全無料。〈所得制限等なし〉

●保育所完全給食〈全額無料〉

町内全保育所で地元産の炊きたてごはんを提供する完全給食を実施。
副食費（おかず代）の実費負担分を全額助成。

●子どもの医療費助成〈子ども等医療費助成制度〉

- ①乳幼児、小・中学生の入院・通院・薬局費が無料。
- ②20歳未満の特定16疾患群に係る入院費が無料。

●不妊治療〈特定・一般〉費助成

不妊治療費等の一部を助成。

●男性不妊検査費助成

保険適用外の検査費用の3割を1回助成〈上限：28,000円〉

●妊婦健診費助成

妊婦一般健康診査14回の受診票を交付。〈県内：無料 県外：上限あり〉

●風疹ワクチン・麻疹風疹ワクチン予防接種費助成

妊婦と同居の方、妊娠を希望される女性及び同居の方の予防接種の助成。〈一部負担あり〉

●産婦健診費助成

産後2週間と1ヶ月の2回の健診費を助成。〈上限：5,000円／1回〉

●産後ケア事業

助産師による授乳指導や心理的ケア。〈産後4ヶ月未満、一部負担あり〉

●乳児一般健診費助成

生後1ヶ月・9～11ヶ月に受けていただく受診票を交付。〈県内：無料 県外：上限あり〉
※乳幼児健診として集団健診を開催〈4・5歳、1歳6ヶ月、2歳、3歳、4歳児〉

●新生児聴覚検査費助成

新生児聴覚スクリーニング検査の費用が無料。

●歯科対策助成

フッ素塗布・フッ素洗口費用が無料。〈対象：3歳児～中学生〉

●定期予防接種費助成

定期予防接種費（BCC/四種混合ほか）が無料。

●インフルエンザ予防接種費助成

妊婦・高校生以下のインフルエンザ予防接種費用が無料。

●チャイルドシート購入費助成

1台につき購入価格の1/2を助成。〈上限：1.5万円〉

●自転車ヘルメット購入助成

1個につき購入価格の1/2を助成。〈上限：2千円〉

●英検助成〈自らの学び応援事業〉

英語検定を受検する費用の全額を補助。〈同一級同年度内1回〉

●通学助成〈遠距離通学費支給制度〉

小学生〈通学距離：2km以上〉、中学生〈通学距離：6km以上〉の定期券等を支給。
※バス通学で最寄りの停留所までの距離が2km以上の場合も対象になります

●就学援助制度

経済的な理由で児童生徒の就学が困難な世帯に対して、学校関係経費を補助。

●就学奨励費制度

障がいのある児童生徒の学校関係経費を家庭の経済状況等に応じて補助。

●夢と可能性に挑戦する人財定住助成金事業

- ①高校・大学等卒業後就職し、川本町に居住した場合に定住助成金として最大50万円を交付。
- ②奨学金を借入れ大学等に進学し、卒業後10年以内に就職、川本町に居住した場合に奨学金返済額範囲内で毎年助成金を交付。〈上限：24万円／年 期間：最長10年〉

●川本町まげなフリーパス

町内在住の高校生以下を対象に町内の公共施設やスクールバス、温泉施設などの利用料が無料（一部割引）となるフリーパスポートを発行。



しまね子育て応援パスポート『COCOLO』^{こっころ} <http://www.pref.shimane.lg.jp/education/syoushika/syoushika/parntenv/coccolo/>

協賛店において、商品の割引、ポイントカードのポイントアップ、景品のプレゼント、子育て関連情報の提供などのサービスを受けることができます。

●新築・中古住宅購入助成

新築住宅の建築費、中古住宅の購入費・改修費の一部を助成。

①新築住宅〈最大200万円〉

- 建築費の1/10 または 50万円のうち、比較して安い方
- + 土地購入額の1/2 または 50万円のうち、比較して安い方
- + 解体撤去費の1/2 または 50万円のうち、比較して安い方
- + 加算額 ①～③ 各25万円〈上限：50万円〉

②中古住宅〈最大350万円〉

- 購入費の1/20 または 50万円のうち、比較して安い方
- + 改修費の1/2 または 250万円のうち、比較して安い方
- + 加算額 ①・② 各25万円〈上限：50万円〉

〈加算額条件〉①中学生以下の子ども1人につき

- ②世帯主が45歳未満の世帯
- ③町内業者が施工



●空き家改修助成

①空き家改修〈最大350万円〉 空き家等の改修費の一部を助成。

改修費の1/2 または 350万円のうち、比較して安い方 ※要耐震診断

②家財撤去〈最大40万円〉 家財撤去、ハウスクリーニング等の費用の一部を助成。

費用全額または 20万円のうち、比較して安い方 ※空き家バンク登録の場合は 40万円

●合併浄化槽設置費補助制度

①単独浄化槽撤去費分 単独浄化槽撤去費用の一部を助成。〈上限：9万円〉

②合併浄化槽設置費分 合併浄化槽設置に伴う費用の一部を助成。〈1基〉

5人槽：58万円 7人槽：78.5万円 10人槽：112万円

※単独浄化槽撤去費分・合併浄化槽設置費分の併用可、10人槽は2世帯住宅が対象です

●生ゴミ堆肥化装置設置事業補助金

生ゴミ堆肥化装置設置に伴う費用の一部を助成。

電源あり：購入費の1/3〈上限：2万円〉 電源なし：購入費の1/2〈上限：3千円〉

●太陽光発電システム設置費補助金

太陽光発電システム設置に伴う費用の一部を助成。〈上限：20万円〉

●飲料水供給施設設置奨励金

簡易水道が供給できない地域にお住まいの方が飲料用井戸の設置をする場合の費用の一部を助成。

対象経費の2/3〈上限：100万円〉

●起業支援制度

空き店舗等を活用した起業、開店にかかる経費の一部を支援。

費用の1/2または200万円のうち、比較して安い方

※特に地域住民の買い物不便等の助けとなる場合は、上限金額が1,000万円となります

●ふるさと納税起業家支援事業費補助金

川本町内で新たに起業または既存事業の展開を始めようとする方の事業資金を、ふるさと納税型クラウドファンディングの仕組みを活用し募集。集まった寄附額の7割を補助金として交付。

※ハード事業を対象に交付する額と同額をさらに上乗せして補助する場合があります

●就業支援制度

目指す就業のスタイル〈自営・兼業・雇用〉に合わせた支援制度。

①産業体験〈農業・林業・漁業・伝統工芸・介護分野等〉

12万円/月〈期間：3～12ヶ月〉

※親子連れ助成+3万円/月〈世帯毎/対象：中学生以下の子どものいる世帯〉

②半農半X支援事業〈就農前研修経費・定住定着助成〉

12万円/月〈期間：1年・1年〉※夫婦共同経営の場合、それぞれが対象です

③農業次世代人材投資事業〈準備型・経営開始型〉

150万円/年〈期間：2年・5年〉



●地域おこし協力隊活動支援補助金

地域活性と隊員の3年後の定住に向けた活動に要する経費に対する補助金を交付。

④雇用型地域おこし協力隊〈川本町役場非常勤嘱託員〉

報酬：163,600円/月〈期間：3年〉 ○活動支援補助金 最大100万円/年度
勤務時間：124時間（16日/月）8:30-17:15〈昼休憩1時間〉

⑤委嘱型地域おこし協力隊〈個人事業主〉

報償費：163,600円/月〈期間：3年〉 ○活動支援補助金 最大200万円/年度
勤務時間：124時間（16日/月）程度または、それに準ずる業務量

⑥専門型地域おこし協力隊〈川本町役場非常勤嘱託員〉

報償費：203,600円/月〈期間：3年〉 ○活動支援補助金 最大50万円/年度
勤務時間：124時間（16日/月）8:30-17:15〈昼休憩1時間〉

⑦起業型地域おこし協力隊〈個人事業主〉

報償費：163,600円/月〈期間：3年〉 ○活動支援補助金 最大200万円/年度
※活動支援補助金は2年目が最大150万円/年度、3年目が最大100万円/年度となります

⑧受入型地域おこし協力隊〈個人事業主〉

報償費：163,600円/月〈期間：3年〉 ○活動支援補助金 最大130万円/年度
※業種・職種により、活動支援補助金の限度額等の条件が異なりますので
詳しくは各募集要項をご確認ください

ふるさと島根定住財団『くらしまねっと』引越し割引サービス <https://www.teiju.or.jp/card/list/moving/>

事前に「U・Iターン応援カード」にお申し込みいただくことで、お引越しの割引サービスなどを受けることができます。

四季折々の自然と文化が調和する

川本町の自然・文化・歴史



「春の妖精」の愛称で親しまれる「イズモコバイモ」



「中国太郎」の異名を持つ「江の川」沿いの桜並木と山桜



三原地区の野生の「ホタル」



島根県指定史跡「丸山城跡」付近から望む雲海



紅葉に彩られた幻想的な景色が広がる川本の秋



江の川に架けられた三つの橋のひとつ「川本東大橋」の雪化粧（石見銀山街道）

川本町は、中国山地に位置し、比較的地形が険しく一年を通じて変化に富んだ景観が楽しめます。多湿地域であることから、美肌県としても知られる島根県ですが、川本町は町内を縦貫する「江の川」の影響で霧

の発生率が高く雲海などの絶景を日常的に目にすることができます。

野生の「ホタル」や国の特別天然記念物「オオサンショウウオ」などの希少生物に加え、農家さんにとっては厄介な野生動物たちも、生命を

身近に感じる暮らしという観点からは魅力的です。そのほか、川本町は、希少種である「ユキワリイチゲ」や島根県のみで自生する絶滅危惧種「イズモコバイモ」の群生地としても知られています。



海外公演も行う川本町を代表する芸能団体「江川太鼓同好会」



日本遺産に登録された石見地方に伝わる伝統芸能「石見神楽」



400年以上の歴史を持つと云われる「小笠原近重流 三原田植囃子」



独特の赤褐色で知られる日本三大瓦のひとつ「石州瓦」



珍宝「猿頭の玉枕」を所蔵する「長江寺」の境内



全国大会の常連校として知られる「島根中央高等学校吹奏楽部」

石見銀山に程近く、江戸時代には天領であった川本町は、古くは中世石見小笠原氏の居館があった場所としても知られ、この地域一帯の中心地として栄えました。町内には、かつてを物語る史跡が

随所に見られ、「田植囃子」や「石見神楽」などの伝統芸能が、歴史の面影を今に伝えています。また、近年では、「緑にこだます音楽の里」をテーマとしたユニークなまちづくりに取り組み、昭和60年に

「音楽の町」を宣言。石見地方随一の音楽ホールを町内に有するなど、文化振興の精神も厚く、風光明媚をもって知られる江の川のほとりにあって、歴史的にも文化的にも成熟した風土を持っています。

ゆうゆう 悠邑ふるさと会館

音楽の町として知られる川本町。かつて、鳥根県立川本高等学校（現鳥根中央高等学校）吹奏楽部が全国コンクールで度々優勝を飾ったことから、昭和60年に「音楽の町」を宣言しました。オーケストラでの本格的コンサートにも対応する1000人規模の音楽ホールを備えた「悠邑ふるさと会館」は、文化の発信基地、町のランドマークとして、町民に親しまれています。



川本町民球場

昭和54年に整備された川本町民球場は、両翼91m、センター121m、ナイター設備を有する天然芝野球場です。昨年、新設された鳥根中央高校女子硬式野球部のほか、小・中・高の野球部の練習や試合、町内地区対抗野球大会の会場として使用されています。過去には、有名歌手による野外コンサートが開催されるなど、町民にとっても思い入れの強い施設のひとつです。

道の駅 インフォメーション センターかわもと

町を縦貫する国道261号線沿いにある「インフォメーションセンターかわもと」は、鳥根県下で22番目の道の駅です。約30種類のエゴマ関連商品のほか、西条柿や鮎などの特産品、町内外の新鮮野菜が揃います。長江寺の「漠頭の玉枕」にあやかかったバクのグッズ商品なども人気で、近隣住民の憩いの場ともなっています。



かわもと図書館

悠邑ふるさと会館内に併設された「かわもと図書館」では、「移動図書」や「絵本の読み聞かせ」などの読書普及活動が盛んです。流線型を思わせる館内が印象的で、試験前の高校生らは自習スペースとしても利用しています。絵本ブースやおすすめコーナーなどのソフト面が充実しており、書籍に対する愛情を感じる空間づくりは、読書好きにはたまらない隠れ人気スポットです。



エゴマの町 かわもと

川本町といえば、なんといっても健康食品でもあるエゴマの栽培が全国的にも有名です。その栽培品質は、「エゴマの聖地」と称されるにふさわしいブランド力を誇ります。そのエゴマの実からつくるエゴマ油は、普段使いやお土産、贈答用のほか、ふるさと納税の返礼品としても人気です。テレビなどで度々話題となり、常に品薄の状況が続いている希少価値の高い特産品です。



みせんそう 湯谷温泉 弥山荘

「湯谷温泉 弥山荘」は、山間に佇む温泉施設で、天然炭酸塩泉としての優れた泉質を誇ります。神経痛や関節の痛みを和らげるだけでなく、アトピーなどの皮膚病にも効果があると云われており、薬湯や信楽焼きの「つば湯」が人気です。地元食材を使ったメニューが豊富なレストランは、食事のみの利用も可能。売店で県内の特産品を購入することもできます。



ささゆり ふれあい公園 笹遊里

「ふれあい公園 笹遊里」は、合宿、会合、サークル活動などに利用される「体験実習館」のほか、ログハウス風のコテージ、キャンプ、バーベキュー、グラウンドゴルフなどのアウトドアを満喫できる滞在型公園です。春から夏にかけて、ササユリをはじめとした様々な種類のユリを観察できるほか、季節に応じて桜、紫陽花、ラベンダーなどの花々を見ることができます。



ええなあまつりかわもと

川本町の夏の風物詩である「ええなあまつりかわもと」には、地元団体による屋台や露店が並ぶほか、中央大通りの特設ステージでは、神楽、よさこい踊り、吹奏楽や太鼓の演奏などが披露されます。クライマックスには、山々を背にした山間部ならではの大道力の花火が打ち上げられる「江の川名物 花火大会」が開催され、毎年多くの家族連れで賑わいます。



次世代に繋ぐ「かわもとまち」を創るために、ぜひ一緒に奏でましょう 島根のだ真ん中で「地域との協奏」

悠久の時を刻む懐深い中国地方随一の大河「江の川」、類い希な農村景観が郷愁を誘う「三原地域」、日本遺産にも認定された心踊る勇壮な「石見神楽」。こうした心の原風景に惹き付けられ、このたび、島根のだ真ん中に位置する川本町長に就任いたしました。

島根県内では離島を除くと最も小さなこの町では、一人ひとりの存在感が大きく、町民みんなの顔が見える関係にあることが、大きな強みとなっています。こうしたこの町ならではの実現可能な「地域との協奏」をキャッチフレーズとして掲げ、「地域の特色を活かした産業のまちづくり」「安全・安心で活力ある暮らしを守る基盤づくり」「幸せを実現する生活基盤づくり」「次代を担う人づくり」「新しい人の流れづくり」の「5つのまちづくり」を目指し、次世代に繋ぐ「かわもとまち」を創り上げてまいります。

実現に向けて、自然・歴史・文化・伝統などが異なるそれぞれの地域で、ライフスタイルに応じて多様な暮らしを選択できる、という大きな魅力を活かし、起業や就農など、新たにチャレンジしようとする意欲ある方々の受け入れを、一層積極的に進めていこうと考えています。「この町だからこそ、自らの可能性が拡がり、夢を実現できた」と思っただけますよう、「かわもと暮らし情報センター」をはじめとする「オール川本」でサポートさせていただき、皆様の未来へのチャレンジを応援していきます。

この町で、ぜひ暮らししてみませんか。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

川本町長 野坂 一 弥

私たちの大好きな町
川本町移住パンフレット2020

SHIMANE KAWAMOTO, JAPAN



だから
こゝが
川本。

島根県川本町
SHIMANE KAWAMOTO-MACHI